交流を拓く情報化
第１回『情報化の現状と交通』

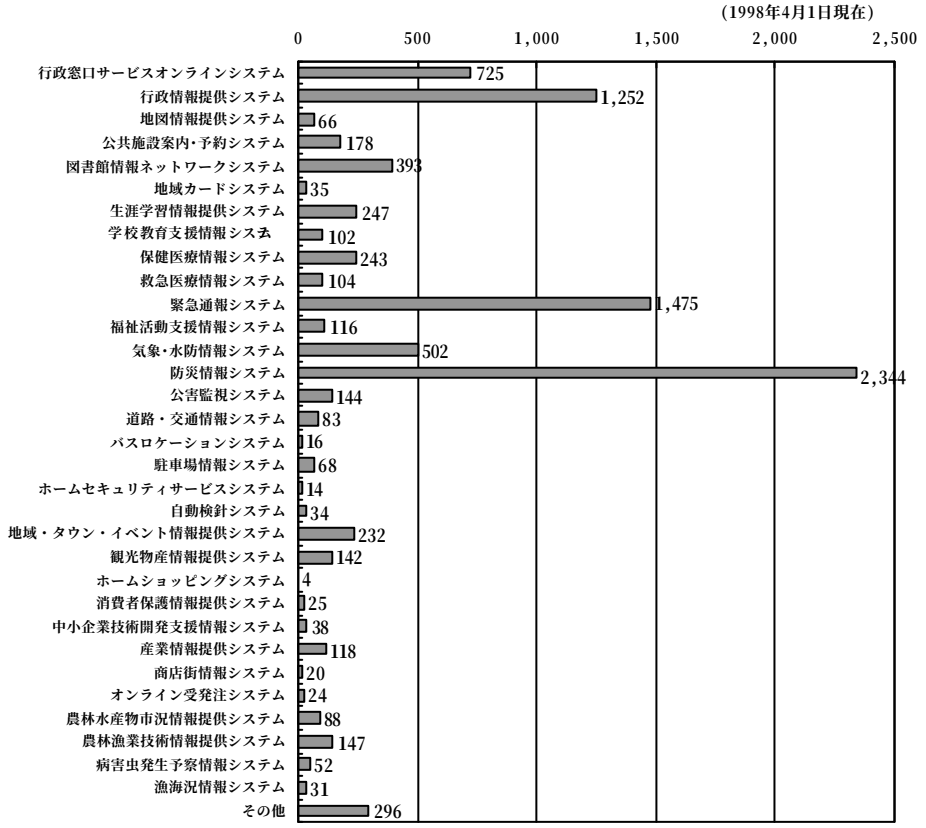
情報は交通を代替するのか。情報化の進展には驚くべきものがある。経済もＩＴ産業を抜きにしては語れない。ＳＯＨＯ、テレワーク、情報化はライフスタイルも変えている。

一昔前の未来図では、情報化によって移動の必要性は薄れ、居ながらにして全てのことが可能になるという。果たしてそうなのか。今回はこうした問題意識の下、議論を行った。

［背景］

§情報化の進展

・情報化の進展は著しい。その中で、地域における情報化も進み、全国の２割以上の自治体で地域情報化計画が策定されており、様々な業務の情報化が進んでいる。

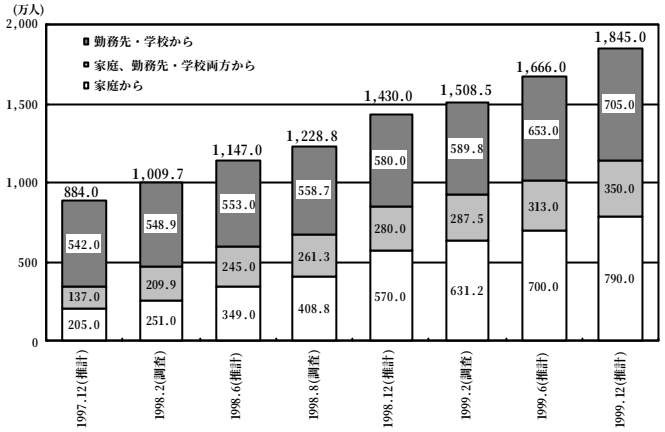


(注)一つのシステムで複数の業務区分に該当している場合がある。

出典：情報政策研究会『地方公共団体における地域情報化施策の概要』

図1-1　地域情報通信システムの概要

・また、ユーザー側として、例えばインターネットの利用は、過去２年間で２倍以上に増加しており、2,000万人近くに達している（1999年12月推計）。なかでも家庭からの接続が増加しており、過去２年間でおよそ４倍となっている。



出典：情報通信総合研究所『情報通信ハンドブック』

図1-2　インターネット利用者の推移

§情報化に伴う社会の変化

・こうした情報化の進展により、例えばテレワーク等に伴う就業構造の変化等、社会へのさまざまな影響も考えられている。

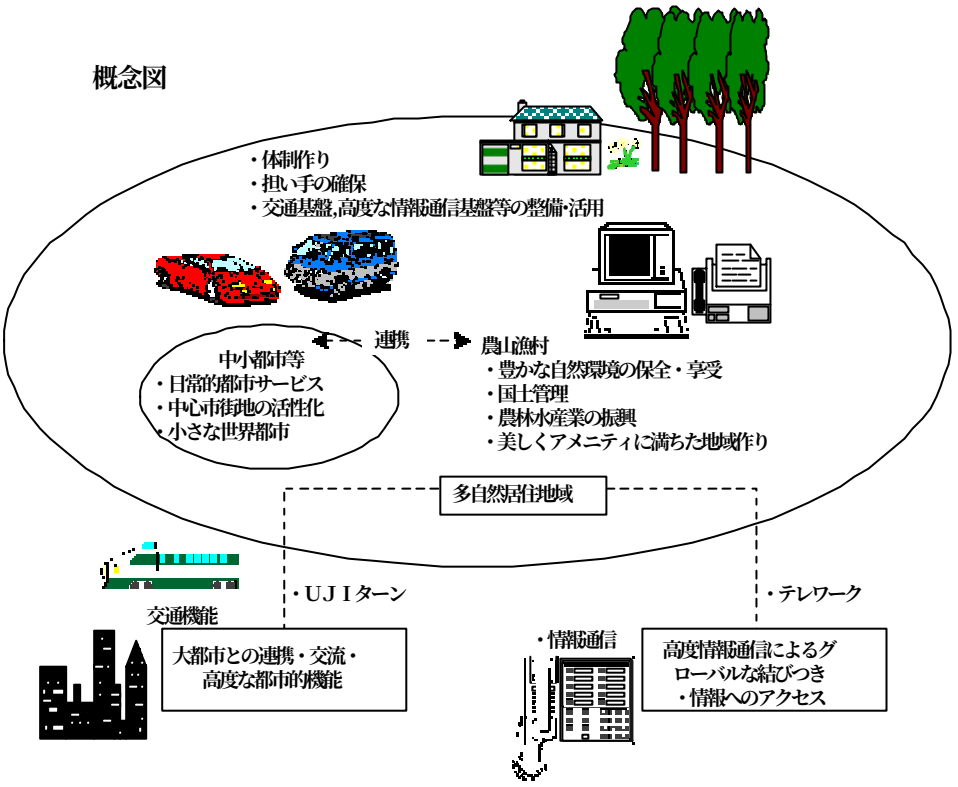
表1-1　テレワークによる就業量等の変貌

職業別区分	全就業量想定		テレワーク就業量想定	
	実数(万人年)	構成比(%)	普及想定(%)	実数(万人年)
管理的職業・事務従事者	1,479	23.3	20	296
専門的・技術的職業従事者	1,113	17.6	10	111
販売・運輸・通信従事者	1,180	18.6	1	12
保安・サービス職業従事者、農林漁業作業、技能工、採掘・製造・建設作業者及び労務作業者、その他	2,566	40.5	0	0
総数	6,338	100.0	6.6	419(100%)
うち、在宅勤務				147(35%)
ｻﾃﾗｲﾄｵﾌｨｽ勤務				63(15%)
ｽﾎﾟｯﾄｵﾌｨｽ勤務				209(50%)

出典：郵政省ホームページ

§情報通信と交通との関係

・その中で、情報通信と交通との関係について、大きく見ると、①『交通・情報通信体系』と総称されることもあるように、国内外の地域相互を結びつける基礎的基盤の両輪としての関係、そして、②『ＩＴＳ』『観光情報提供』等に代表される交通体系を情報通信技術が支援するという関係に区分される。



『新しい全国総合開発計画』をもとに三菱総研作成

図1-3　『新しい全国総合開発計画』における地域整備イメージ

論点：
・地域・社会の情報化の実状、今後の方向性は？
・情報通信が交通を代替する例は？
・情報化によって交通需要が増大する例もあるのか？
・交通に限らず、情報化によって社会に生じている変化は何か？
・情報化に伴う社会の変化によって生じている新たな課題・要請にはどのようなものがあるのか？

［ゲストスピーカー］

情報化による交流の状況について、情報化を進める立場、そして情報化をツールとして利用する立場という、情報化の供給側と利用側の立場がある。今回は、これら２つの立場から情報化の最前線で活躍するお二人を招き、情報化と交流についての意見をおうかがいした。

新崎　力也（しんざき　りきや）
（株式会社ビューワークス取締役）
旭川市でＣＧを用いたマルチメディア制作等に携わるほか、こうした制作に身障者の参画を促す仕組みづくりを検討。今回は、情報化に伴う就業形態等の社会の変化についてお話しいただいた。

須藤　富弘（すどう　とみひろ）
（三菱電機㈱渉外営業部担当部長）
地域情報化のハード面・ソフト面での基盤を開発・提供するメーカーとして、全国各地の自治体と共同で地域情報化の実証に携わっている。今回は代表的な地域情報化の事例等についてお話しいただいた。

旭川から～地方でＩＴ産業に携わる（話題提供：新崎氏）

●情報通信は交通を代替していない

・㈱ビューワークスの主な業務はＴＶや劇場用のアニメーション等のマルティメディア制作・ＣＧ制作である。クライアントは主として在京の企画・制作・放送等のディストリビューターである。

・情報化によって交通需要が減少するという議論がある。事務経理等の基幹業務ではある程度あり得るが、マルチメディア制作についていえば無理である。それは、制作作業は制作者の個性や力量が強く反映されるため、クライアントとの報告・確認を密に行わなければならないことが最大の要因である。また、クライアントであるディストリビューターが東京に集中している現状もふまえ、東京まで出張する機会は年々多くなっている。

・また、こうした打ち合わせとは別に、画像データのやりとりを行う必要性も多くなっているが、画像データは容量が大きくネットワーク上での伝送は現在の通信環境では事実上不可能である。結果として宅急便や郵送に頼らざるをえず、情報化により郵便量の減少につながっていない。

●情報化による連携・交流の進展は

・情報化による地域連携について、北海道では実感がない。むしろ、東京など大都市圏へのさらなる一極集中が進んでおり、都市と地方の双方向交流ではなく、仕事を受注するための地方から大都市への一方的な移動が増えている。また、有名な話であるが、

韓国等でのアニメ制作も、珍しい話ではなくなっている。ある意味で国際交流の一つであるといえるかも知れない。

・インターネットショッピングは、国内では大きく伸びている。国際間のものの流れについては、周囲を見渡した限りでは、語学の壁や為替事務の繁雑さ、ユーザーニーズへのきめ細かな対応が難しいことから、輸入主体は個人から大手専門業者にシフトしているようである。

［コラム：インターネット・ショッピングの拡大]

インターネット・ショッピングは『普通のもの』になってきており、インターネット利用者の過半数はインターネットショッピングの経験があるという。流通する商品の種類も書籍やコンピューター関連機器を始め、多岐にわたっている。

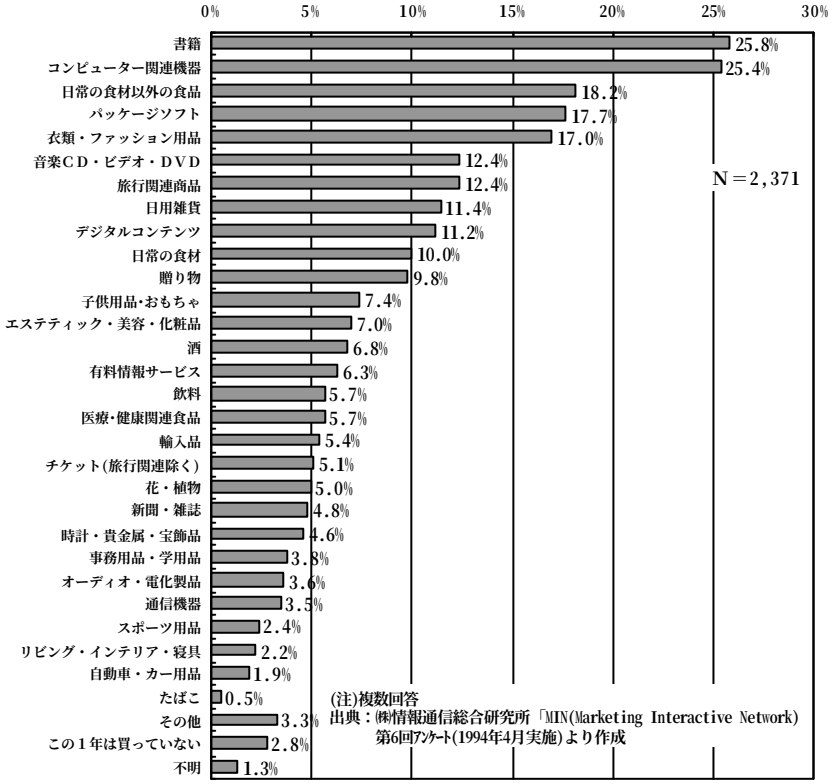


図1-4　インターネットショッピングでの購入品

●情報化で雇用構造が変わる・変えられる

・大都市における情報処理量の増大に伴い、中央における雇用機会が増える一方、地方からの人材流出が進んでいる。地元の例として、情報技術を学んだ旭川工業高専の卒業生を例に取ると、以前は20%は地元に就職したが、現在は95%が東京に行く。

・こうした状況を鑑みると、情報化が進むと地方の時代になるという安易な論調には疑

問がある。現状では、太い回線を引いても需要に間にあわず、郵送量や移動回数が増えるばかりである。郵政省のギガビットネットワークなども、ユーザー段階のメリットはそう大きくない。北海道ではインフラ整備の結果、交通面ではかなりゆとりが出ているので、今後は新幹線よりも情報インフラ整備を進めてほしい。さもないと人材流出がさらに進む。

・つまり、情報化による地域・社会の変化について、受け身では地方はやっていけない。能動的に変えていくことが必要であり、そのための取り組みを進めている。

・現在、旭川市では、市民36万人のうち２万人が身障者手帳を持っている。こうした人たちの雇用の場を創るため、情報基盤を通じ、アニメのセル画制作や地図情報のＣＡＤデータ化などを適正価格で請け負う仕組みづくりを検討している（参考資料）。

情報化で活性化を～地域情報化を仕掛ける話題提供：須藤氏）

●地域の情報化を仕掛けてきた

・『地域情報化』という概念は特に新しいものではないが、５年くらい前から地域活性化と絡めた取り組みが積極的に行われるようになってきた。

・全国およそ3300の自治体のうち、200～300団体が情報化に取り組んでいるといわれているが、事務作業の電算化から、ハード・ソフトの両面での地域ネットワークの整備といった大きな規模のものまでさまざまである。三菱電機㈱では、情報通信機器等、ハード面での情報インフラはもとより、その上でのアプリケーションの提案まで、自治体と議論しつつ、地域情報化に携わってきた。

●県レベルでの情報化～高知県「KOCHI 2001 PLAN」

・県レベルで情報化への取り組みを積極的に推し進めている県として、高知県が挙げられる。高知県は全国でも特に高齢化が進み、地域活性化が大きな課題となっていることもあり、知事が中心となって全県レベルの情報化プロジェクトを推進している。

・具体的には、大容量（50MB）の基幹通信網を整備し、保健・医療・福祉情報システム構築による高齢化への対応や、道の駅「KoCoRo'97」の情報化による観光・行政情報の発信、あるいはドリームネットによる教育の情報化、そして高知工科大学による産業振興など、総合的な情報政策を展開している。

●交通基盤の代替としての情報化～北海道別海町「先進的情報通信システムモデル都市」

・人口およそ２万人の北海道別海町は、町村としては比較的規模は大きいものの、面積が神奈川県ほどもあり、高齢化を迎え、長距離移動が一つの課題として挙げられている。ここでの情報化は、遠隔医療をはじめとするシステムにより、長距離移動の障壁をなくすことを目的としてはじめられた。

・具体的なシステムとしては、ＴＶ電話による遠隔医療、ＴＶ会議の活用による移動を伴わない行政関連会議の開催などが実現されている。このほか、全小学校にパソコン

を設置し、情報化による教育レベルアップや、酪農技術の向上、技術情報の共有なども進められている。

●庁内の情報化、地域の情報化～岡崎市「高度情報化計画」

・地域情報化のデパートとでも言えるのが岡崎市。早くから庁内情報化に取り組んでいたが、ＣＡＴＶの普及に併せ、住民生活の情報化も急速に進んでいる。
・比較的早くから整備されていたＣＡＴＶのネットワークに光ファイバーを組み合わせ、最新のシステムにキャッチアップしている。
・情報化の中核施設である情報ネットワークセンターを拠点に、行政情報のほか駐車場情報等の生活情報発信、テニスコート予約等の双方向情報発信を展開している。

［コラム：行政情報の発信状況］

インターネットの普及により、行政からの情報発信もホームページを通じたものが増加している。その内容は、行事やイベントの紹介や観光・物産情報、公共施設の利用案内等が多くなっている。

表1-2　行政のウェブページ情報発信内容

（1998年4月1日現在）

区分	1998年度	構成比（%）	1997年度	構成比（%）	対前年度比（%）
行政の各種事業状況	999	11.9	508	11.8	196.7
統計情報	479	5.7	235	5.4	203.8
公共施設の利用案内	1,070	12.7	509	11.8	210.2
健康・医療情報	266	3.2	112	2.6	237.5
生活情報	450	5.3	219	5.1	205.5
観光・物産情報	1,401	16.7	751	17.4	186.6
地域産業情報	690	8.2	385	8.9	179.2
行事・イベントの紹介等	1,621	19.3	832	19.3	194.8
研究内容	200	2.4	109	2.5	183.5
大学等の紹介	105	1.2	49	1.1	214.3
情報公開	93	1.1	54	1.3	172.2
広聴・アンケート	485	5.8	244	5.6	198.8
電子会議室	60	0.7	31	0.7	193.5
その他	493	5.9	282	6.5	174.8
合計	8,412	100.0	4,320	100.0	194.7

（注）一つのウェブページで複数の内容を提供している場合がある。

出典：情報政策研究会（自治大臣官房情報政策室内）『地方公共団体における地域情報化施策の概要平成10年版』

ディスカッション再録：情報化の現状と将来をきちんと見据えよう

●情報化は地域を変えたのか？

Q：情報化によって地域への影響はあったのか？

A：あった。例えば、インターネットで観光情報等を発信した結果、市外との交流が活性化されている。また、農業情報の発信で、農業に関心を持つ都市住民が郊外の農園を訪れるようになった。ただし、よく言われている行政サービスについて、テニスコート予約システムのようなものはあるが、市役所に出向かなくても住民票を受け取れるようなシステムはまだ実現されていない。

●それでも情報化によって東京への移動が増えるのか

Q：情報化によるテレワーク等の実態は？

A：マルチメディアの制作という業務上、原則としてオフィス勤務で、旭川リサーチパーク内のＣＧ制作室での作業が中心である。東京へは打ち合わせや営業等で月２回くらい出かけている。札幌には週１回。大きな都市には専らビジネスで出かける一方、自治体からの相談や催しのブレーンとして道内の小都市に出向くこともある。

Q：なぜ東京なのか？

A：現状では東京に出かける必要性は高い。マルチメディア産業の業務、例えばアニメを例に取ると、企画・脚本・スポンサー探し等のディストリビューション、原画、動画、彩色等のプロセスがあり、原画以降の作業であれば地方でも対応できる。しかし、ディストリビューションについては、ＴＶや映画会社が東京に集中している以上、上京しなくては仕事にならない。結局、マルチメディア産業に限らず、ビジネスの中心が東京であり続ける限り、地方の企業も東京に拠点を置いたり、営業のため上京しなくてはならない。

●東京への一極集中は変わるのか

Q：東京への一極集中の是正の流れはあるのか？

A：例えばアメリカではユタやネブラスカにＢ級専門会社が集中するなどハリウッドからの分散化も見られる。日本でもディストリビューションが地方に分散するようになれば状況は変わると思う。

Q：課題があるとすれば何か？

A：また、モーションキャプチャーのモデルデータ蓄積で成功したアメリカ・ビューポイント社を参考にして、旭川でもデータ・ライブラリを商品化したことがある。このように、事業のアイディアや採算ベースにのせるための方法を持っていても、地方の会社で十分な実績がないとなかなか理解してもらえず、結局東京に拠点（支店）を置かないと事業が展開しないのが現実である。

●情報化による社会構造の変化は？課題は？

Ｑ：社会構造は変化するのだろうか？

Ａ：変化を待つのではなく、変化させようと取り組んでいる。例えば、情報通信網を活用し、身障者が在宅で移動せずに仕事ができるような仕組み（旭川福祉村ＣＧアニメ番組製作構想）を提案した。これは、子どもたちとの接点を持ち、ＴＶなどの創作的な仕事がしたいという高齢者や身障者要望に応えようとしたものである。コンピュータを介することによって、下半身が不自由でも、短期間の訓練で２・３次元ＣＡＤ入力などの仕事ができるようになる。

Ｑ：その際の課題は？

Ａ：こうした身障者の雇用拡大にあたり、課題も出てきている。まず、移動しなくても仕事ができる環境をつくること、次に移動する際の補助のあり方。例えば下半身が不自由な人と話をすると、低床バスなど莫大な費用がかかる施策よりも、身障者を補助する介添人の運賃免除の方がありがたいとのことである。

●情報ネットワークの必要性を改めて考えてみると

Ｑ：情報ネットワークは本当に必要なのか？

Ａ：情報や交通のネットワークは国土の均衡ある発展や地域振興に必要という考えがある反面、交通ネットワークが充実しすぎると人材が大都市に流出するという意見もある。都市と地方のネットワーク化についてどこまで進めるべきなのか、というのが課題である。

Ｑ：情報化と情報インフラのバランスはどうか？

Ａ：現状では情報インフラにはお金をかけていないというのが正直な感想。現在では需要の増大に転送容量が追いつかず、郵送という手段になってしまっている。陳腐化しないように、急場しのぎではなく、徹底的にいいインフラをつくってほしい。例えば情報ハイウェイではなく情報アウトバーンをつくるくらいが望ましい。

Ｑ：インフラが整備されればそれでよいのか？

Ａ：また、ネットワーク化をはじめ、情報インフラ面の新しい技術が出てきても、地方にはそれを活用するだけの体力がない。事業のアイディアがあってもお金が足りなかったり、コンピュータへの不信感や「地方では先端的な仕事ができない」という先入観が、情報化の進展の壁になっている。こうした地方の抱える問題について、地方の先進的な取り組みを行っている立場からもどう対応していけばよいかわからない状況である。

（研究会を終えて）

一昔前から、情報化による交通の代替・補完という方向性が示されていたが、今回の議論ではそれに対する中間報告的なものがなされた。

情報化の進展は、高齢者や障害者の雇用機会が増えるなど、社会の構造は変わってきているが、それは必ずしも交通需要を減らすことには直結せず、むしろさまざまなものが集積する東京の重要性が高まっていることが示唆された。また、情報化による地方分散を進めるためには、更なる情報インフラの整備が必要であること、そしてそれを使いこなす側＝地域＝の工夫も必要であることが示唆された。

参考資料
（ゲストスピーカーが取り組んできた地方自治体の情報化の取り組みモデル）

（岡崎市における情報提供内容）

参考資料
（旭川福祉村における新たな仕組みの構想）

参考資料：
（電気通信審議会『次世代地域情報化ビジョン（1999年5月31日答申）』における未来イメージとその中の交通関連部分）

2010年、主人公である女性はフランス語講師で35歳。百貨店で営業を担当している夫（38歳）との間に小学校２年生の娘（８歳）がいる。
２年前にある地方都市のニュータウンに念願の家を建てたが、この家は小さいながらも機能満載であり、また、全ての機器のコントロールが手のひらサイズのハンディターミナルだけで可能である。

朝、目覚めて台所に行くと、先に起きていた夫が料理の支度をしていた。
「あれ、今日は私の番じゃなかった？」
「そうだっけ、忘れてた。でもいいよ、今度代わってくれれば。」
最近は、台所の家電製品もマルチメディア化され、台所仕事も楽になったので、もう夫婦で食事の支度のことで揉めるようなことも無くなった。

冷蔵庫のディスプレイに朝食のお勧め献立が表示されている。この冷蔵庫は、電源を付けっぱなしの冷蔵庫の特徴を生かし、冷蔵庫上部にパソコンを取り付けたものであり、中身や賞味期限等を自動的に認識し、それを基に献立を組み立ててくれるので、すっかり冷蔵庫に残り物が溜まることはなくなった。
また、この冷蔵庫はインターネットにつながっており、ディスプレイ上で料理メニューを選択するだけで必要な材料の宅配が受けられたり、外出先から冷蔵庫の中身が確認できたりする優れものである。

朝食が済むと夫と娘を送り出し、書斎で授業の準備をする。
夫は基本的には在宅で業務を行っているが、やはり営業をする上では直接会って話をすることが欠かせないらしく、１週間に１，２度は得意先回りをしている。
一方、私は市役所が主催するコミュニティスクールに講師登録して週３日間教鞭をとっているが、ネットワーク上のバーチャルスクールなので外出の必要はない。

在宅勤務で夫がいつも家にいると子供は喜ぶが、私としては常に一緒なのは少しうっとおしいので、時々外出してくれるのは息抜きになって有り難い。
生徒から確認動画像付きの電子メールでレポートが届いていたので、授業が始まるまでの間中身をチェックすることにした。外国語会話の場合、発音だけでなく口の動きも指導のポイントとして重要なので、動画像付きのメールは非常に有り難い。

そういえば、今使っている教材もここ数年使ってきてマンネリ気味だ。そろそろ新しい教材でも探しておこう。
ハンディターミナルを画面に向けてメニューボタンを押し、表示された公共サービスの一覧から「図書館」を選択すると、図書館に接続され検索・貸出し等のサービスを受けることができる。また、図書館システムは全国ネットになっており、借りたい本は全国規模で配送サービスを受けることができるようになったので、本の択肢が格段に増した。

授業の時間になると、自動的にＶＲ（ＶｉｒｔｕａｌＲｅａｌｉｔｙ）システムが立ち上がる。このシステムにより、室内があたかも教室であるかのように仮想空間を実現できるため、全員ばらばらな場所にいるのにも係わらず、全く違和感を感じない。

このＶＲシステムでは、このようなＴＶ会議的な空間だけでなく、バーチャル旅行やバーチャルゴルフ、バーチャル遊園地等の様々な仮想空間をシミュレートでき、更に日常生活では体験できないようなことまで仮想体験できる。

授業が終わると、昨日まで熱を出して寝込んでいた娘が心配になったので、ハンディターミナルの遠眼鏡ボタンを押して娘が通う公立小学校に接続してみた。すると、娘が授業中に騒いで先生から怒られている様子が映し出された。
「全くあの子は誰に似たんだろう」とつぶやきつつ、元気そうだったのでまずは一安心だ。
公立小学校と児童の家庭はネットワークを介して接続されており、いつでも子供の様子を確認できる。また、先生との話し合いもテレビ電話で気軽にできるので、かつてのようにいじめで登校拒否などという問題もすっかり無くなった。

しかし、一昨日は大変だった。家族で久しぶりに山登りに行ったものの、娘が急に熱を出して動けなくなって大騒ぎだった。
休日のため麓の病院も休みだったので一瞬ヒヤリとしたが、かかりつけの先生にハンディターミナルで連絡をとり、指示に従い娘の口の中の画像やＩＣカードに記録されている最近の娘の体調のデータを送信した。すると、応急処置と処方箋が指示され、それに従い対処したところ、とりあえず家に帰れる状態になった。
かかりつけの先生も休暇で、旅行中だったのだが、快く診てくれたので、なんとか事無きを得た。
そんなことを思い出していると、税務署から確定申告の催促のメールが届いた。
以前は沢山の書類を作成したり、取り寄せたりしなければならず非常に面倒だったが、今は堅牢なセキュリティと認証技術の下で必要書類は全て電子的に流通されているので、ネット上で難なく手続を終えることができる。

今日はシステムメンテナンスの都合で午後の授業が休講になったので、昨日忙しくて見

逃してしまった番組を見ることにした。
　サーバには全チャンネルの番組が１週間分蓄積されており、自分の都合の良い時間に好きな番組を簡単に呼び出して見ることができるので非常に便利だ。また、ＶＯＤによりペイパービューで最新の映画を見ることもできるが、最近は時々映画館の雰囲気がたまらなく恋しくなり足を運んでしまうこともあるから不思議だ。

　報道番組を見ていたら見慣れない用語が出てきたが、ハンディターミナルのインターネット連動ボタンを押すと用語の説明が画面の隅に表示されるので、最近は難しい内容もすんなり理解できるようになった。
　そのせいか、井戸端会議の中身もレベルアップしたような気がする。

　番組の内容は、市の新年度の予算が決まったという話だった。
　「生涯学習の予算は十分に確保してくれているのだろうか」と思い、画面上の公共サービスの一覧から「電子市役所」を選択し、更に「情報公開－予算」を選択して確認してみた。
　「ああよかった、去年より増えてる。これで新しいソフトが買えるわ。」

　番組が終わりに近づいたころ、
　「ただいまっ！」の声と共に娘が帰ってきた。ネットワークを通して様子を見ていても、実際に顔を合わせるとほっとする。
　「今日、クラスで創作ダンスをしたんだよ。すごく楽しかった！」
　「そう、よかったわねー。」うれしくて思わず頬擦りしてしまった。

　そうこうしているうちに夕方近くになってしまったので、買い物に行くことにした。買い物に行く途中で、「久しぶりっ！」と肩を叩かれた。びっくりして振り向くと、高校の時の同級生だった。
　「何年振り？」「高校の時以来だから、１７年ぶりよ。」
　「今どこに住んでるの？」
　「北海道。弟の結婚式があるんで、日曜までこっちにいるの。」
　「日曜までいるなら少し時間とれるでしょ、それなら帰る前に１回飲みに行こうよ。」
　「そうだね、じゃあメールアドレス教えて。連絡するから。」
　最近は家から出なくても全く不便の無い生活が送れるようになったが、時々外に出てこんな風に「偶然」の出来事に遭遇すると、なぜか新鮮な感動を覚える。

　ショッピングセンターに着いた時、ふと気付いた。
　「お勝手の鍵、閉めたかしら？」しかし、そのような時も全く慌てない。バッグに入れておいたハンディターミナルを使って家に接続すると、戸締り状況、冷蔵庫の中身、電気機器・ガスのＯＮ・ＯＦＦ状況等を即座に確認でき、更にはそれらのスイッチのＯＮ・ＯＦＦもできるからだ。
　また、ハンディターミナルを使うと家の設備のコントロールだけでなく、銀行振込、チケット予約、更には安売り情報を始めとする様々な生活情報が簡単に収集できるので、家の中だけでなく外でもすっかり必需品となっている。

　家に戻り、夕食の準備をしていると、突然「もしもし」という声とともに、画面にラクダが大写しになった。一体何事だと思って応答してみると、ラクダの横から友人の姿が現れた。話を聞いてみると、今アフリカのとある砂漠に旅行に行っているとのこと。全くのんきなものだ。

　しばらくすると、画面に市営バスのマークが表示された。
　「あっ、もう帰ってくるの。夕食の準備まだなのに。」
　交通情報システムにより、主人が乗っているバスが家に近づくと自動的にＴＶにマークが表示されるようになっているのだ。

　「そういえば、住民票っていつまでに提出しなきゃいけないんだっけ？」
　夕食をとっている時に夫が言った。
　「明日提出じゃなかった？」
　「じゃあ、夕食が済んだら取っておくよ。」
　こんな時、以前ならば慌てふためくところだが、今は電子市役所にアクセスすれば24時間行政手続や施設予約ができるから大丈夫。

　明日は早朝からボランティア活動で、ネット上でお年寄りとの対話会があるので、早めに寝ることにしよう。
　「２人とも寝る前に健康チェック忘れずにね。」
　就寝前にはトイレにある健康チェッカーで各種データを計測するのが習慣になっている。データはサーバに蓄積され、時系列的な変化を確認できる。また、保健所で保健婦（士）さんが定期的に中身をチェックしてくれるので、しっかり健康管理ができるようになった。
　２人が健康チェックしている間に、もう一つの就寝前の習慣である「エネルギーチェック」をしておこう。ＬＡＮで接続された各機器から随時消費量のデータがサーバに吸い上げられているため、各機器の電気・ガス・水道等の消費量を詳細にチェックできるようになっているのだ。
　「最近、家で過ごす時間が長くなったせいかエアコンの電気代がスゴいな。もっと外に出かけて、省エネしなければ・・・。」
　知らず知らずのうちに省エネ意識が高まってきたような気がする。

　さあ、寝よう。あっ、その前にホームセキュリティシステムを「就寝モード」に切り替えておかなければ。

　明日もがんばろう。
　それではおやすみなさい。

おわり